

絵手紙 / 八尾・柏原支部 田中義子



大 阪 版
No. 4 7 4

発行所
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟

〒113-0034
東京都文京区湯島 2-4-4
平和と労働センター 全労連会館

大阪府本部
〒543-0045
大阪市天王寺区寺田町 2-6-2
東大阪 (ARK) ビル 3F

TEL・FAX 06-6772-7555
振替 00910-6-53293

E-mail
tidouosk@opal.plala.or.jp
大阪版ブログ URL
http://doumeinews.exblog.jp/

ついに発刊! 「犠牲者名簿・大阪」

8月末に待望の大阪の「犠牲者名簿」の完成本が府本部事務所に届きます。発刊日は「第40回府本部大会」の開催日に合わせて9月4日付けです。約10年がかりの願いと努力が実りました。

2011年に名簿づくりの作業が始まりましたが途中で中断。17年3月から改めて府本部内に「調査・顕彰委員会」を設置し再開、精力的な努力が続けられ、校正作業だけでもコロナ禍とも闘いながら2年間54回も重ねられ、1597名の名簿が完成したのです。

関係者の皆さんのご努力とご協力に心からお礼申し上げます。

戦後、治安維持法廃止から76年、いまだに政府が犠牲者に対する謝罪と賠償どころか「実態調査の必要もない」と拒み続けている中で、自らの努力で大阪の「犠牲者名簿」を発刊できたことは、時代に抗して光を求めた人々の名譽回復と顕彰を行うとともに、けっして歴史をあいまいにさせない、逆流を許さない、人間の尊厳と歴史の進歩を大切にする輝かしい一歩だと思います。

『時代に抗して光を求めた人々——治安維持法犠牲者名簿・大阪』の普及に多くの団体・個人の皆様のご協力をどうかよろしくお願いします。

(松本洋一郎)

私たちの運動の基本

- ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために
- 一、治安維持法体制の復活に反対する
- 二、国は戦前の治安維持法が人道に反する悪法であったことを認めること
- 三、国は治安維持法の犠牲者に謝罪と賠償をおこなうこと



100年前、権力に抗した一人の少女の人生が映画になる。呼びかけ発起人5人、呼びかけ252人で、吹田・摂津上映実行委員会がスタートです。又、20団体からの実行委員も募集できました。そして7月16日(金)PM2時、内本町コミュニティセンターで「わが青春つきるとも・伊藤千代子の生涯・上映運動スタートの集い」を取り

吹田・摂津上映実行委員会をつくり 50名で「スタートの集い」

副会長 野間 優子
くみました。

当日は50名の参加で、会場はいつぱいに。司会は実行委員の橋本恵美子さん。実行委員長の西田泉さん(日本共産党吹田・摂津地区委員長)の開会挨拶のあと、事務局の松本洋一郎さんが取りくみの経過などについて報告。そして記念講演です。

まず、伊藤千代子の生い立ちのDVDを鑑賞し、講師の藤田廣登さんから「地しほりの花3・15不屈の青春」と題してパネルや資料紹介をされながらの話の聞きまし。

最後は実行委員の山下和子さんの閉会挨拶でした。参加された方々からよせられた感想は、「伊藤千代子の壮絶な生き方を学んで活かしたい」「映画が楽しみ、お手伝いしますよ」「上映運動にがんばりたい」「若い人に観てほしい」「映画を通して100年前の日本を、今の日本に変えてきた力を学びたい」

思い出すのは映画『小林多喜二』のすさまじい文学への情熱と魂です。ジェンダーを叫ばれている今日、これからの尊い糧になることでしょう。崇高な哲学と強靱な意志に支えられ、命をかけて「戦争反対」を掲げて、国家権力に立ち向かい、これからの開かれた未来ある人生におくびもなく突き進んでいきました。現代なら、司法に異議を唱えて委ねることが出来ます。さぞかし悔しかったことでしょう。

そんな「伊藤千代子」の映画が誕生します。制作・上映の意義として「千代子」の生き様を通じて、青年層が「生き方」を考える機会にする、ジェンダー

「わが青春つきるとも」伊藤千代子の 生涯映画成功へすすみはじめました！

西淀川区 北野 倫子

問題を考える、社会変革への展望を考える機会にすることを確認しました。

実行委員会を立ち上げるために、民主団体や労働組合に参加を呼びかけていきます。「子育てと教育を考える西淀川ネットワーク」(西淀子育てネット)は、定期的な学習や交流、区内すべての幼・小・中学校訪問による現場の実態を知り、運動につなげてきました。

今回債券1口10万円に先頭をきって参加しています。18年前の学童保育の映画『ランドセルゆれて』や4回のフードバンク(食料無料市場)の成功を力にして、西淀川でも成功させたいと思っています。

第40回府本部大会

9月4日(土)13時30分～16時
国労大阪会館3階 大会議室

第1部 総選挙勝利決起集会(13時30分～14時30分)

国会報告 衆議院議員 清水ただしさん



比例代表選挙で躍進するためには、日本共産党がどういう歴史を持ち、どんな政策を掲げ、どのように活動して来たのかなどについて、分かりやすく有権者に伝える努力が必要です。近畿ブロック定数28のうち、現在2議席の共産党。果たしている役割から言えば全く少ないです。秋の総選挙では必ず4議席への躍進を。「比例は共産党」のスローガンに魂を込めて。

(清水ただし議員フェイスブックより)

第2部 府本部大会(14時40分～16時00分)

- 1 会長あいさつ 2 事務局長代行報告 3 財政報告
- 4 討論 5 役員承認…等の議事です。

80分間という短時間で参加人員も50名定員の大会になります。40周年という記念すべき府本部大会として、組織のあり方を振り返り、コンパクトでありながら専門分野は充実させる、そして会員に身近な府本部体制づくりをめざす大会にしたいと三役一同決意しているところです。

支部の代表者2～3名を出席させてください。支部のない行政区は府本部事務局から推薦します。ヨロシクお願いします。

尹東柱(ユン・ドンジュ、1917-1945年)は、朝鮮の詩人で、韓国では国民的詩人として有名です。尹は、ソウルの延禧専門学校文科(現延世大学)を卒業後、1942年、東京の立教大学英文科選科に入り、10月に京都の同志社大学英文科選科に編入していた敬虔(けいけん)なキリスト教徒でした。

戦前、朝鮮は日本の植民地とされ、皇国臣民化をすすめるために朝鮮語の使用を禁止され、



断片4. 言葉と文字を奪われた時代に、自分の国の言葉と文字で詩を書き続けた抵抗詩人
ユン・ドンジュ(尹東柱)

茨木支部・支部長 辻村 惺

名前についても民族性を奪う創氏改名を強制され(1940年)、「朝鮮の独立」の叫びは徹しく弾圧されました。尹は、在学中、朝鮮語で詩や日記を書きためていましたが、特高警察はそれが「独立運動」につながるとし治安維持法違反で43年7月、逮捕、翌年懲役2年の判決を受け、45年2月16日、旧福岡刑務所で獄死しました。「中身のよくわからない注射をくり返し打たれ」、息絶えたといわれています。27歳の若さでした。

尹をしのび、延世大学校には「尹東柱記念室」がつくられ、同志社大学にも尹東柱の詩を刻んだ石碑が建てられています。「詩碑」には彼の代表作の「序詩」が刻まれています。

死ぬ日まで空を仰ぎ
一点の恥辱(はじ)なきこと
を、
葉あいにそよぐ風にも
わたしは心痛んだ。
星をうたう心で
生きとし生けるものをいとお
しまねば
そしてわたしに与えられた道
を
歩みゆかねば。
今宵も星が風に吹き晒され
る。

僕はこの「序詩」の汚れなき
清浄さ、精神性と彼の意志力に
接すると、いつもだぶってしま
うのが、僕の大好きな、良寛禪
師の書で有名な「君看双眼色
不語似無憂」の詩、禅の教えで
す。キリスト教と禅の教えにも
相通ずるものがあるのかもしれ
ません。

『大阪のモッブル 戦前大阪の弾圧犠牲者救援運動』を刊行
柏木 功 著/発行 A5版176頁 頒価500円 送料180円



自らも弾圧されながら「弾圧犠牲者とその家族を救え」と、とりくんだ大阪の解放運動犠牲者救援会や赤色救援会の確立と弾圧での壊滅まで当時のビラや官憲文書で描く。

申し込みは府本部または柏木さんまで 072-779-3019 (FAX 兼)
メールは isao.kashiwagi@gmail.com

まる9年がかりの犠牲者名簿いよいよ完成

名誉会長 有川 功

やっと大阪の治安維持法犠牲者名簿ができあがろうとしています。手がけ始めてからまる9年の歳月を費やしたことになります。当初の構想は「特高月報」と「思想月報」に記載された大阪の関係者を整理するというものでした。これだけでも、かなりの作業を要するものでしたが、実際に手をつけてみるとこれでは間に合わないことがどんどん明確になってきました。

どうしても犠牲者一人ひとりについて仔細に調べる必要が生じてきたのです。事件の顛末やエピソード、生い立ちなどを紹介しておく必要のある方々、時には予審調書などに当たるべき人たちも多数おられることが分かったからです。もちろん特高・思想月報の範囲以上のことが、どうしても分からない方々もかなり残っているのですが、それでも当初の863名から1,231名(うち女性107名以上)と大幅に増えることとなりました。なお、戦後の活動で著名な方々もかなりおられますが、ごく少数の例外を除いて、基本的には戦

後の活動には触れていません(この間の経過については「あとがき」に詳しく書きましたのでご参照ください)。

犠牲者名簿から何を学び、どう活用するか?

この名簿から学ぶべきことは何でしょうか。あの過酷な戦時中に反戦・平和の旗印を掲げて闘い抜いた無名の人々がこんなにおられた。その気概、信念を貫くことの偉大さこそ、学ぶべきことでしょう。同時に、多くの場合それは鉄人ではなく、今日の我々と同じような血の通った、生身の人間であったことです。その人たちが試行錯誤も繰り返しながら、事態を前へ前へと進めてきたこと、その群像こそ今日の私たちにつながっているのです。

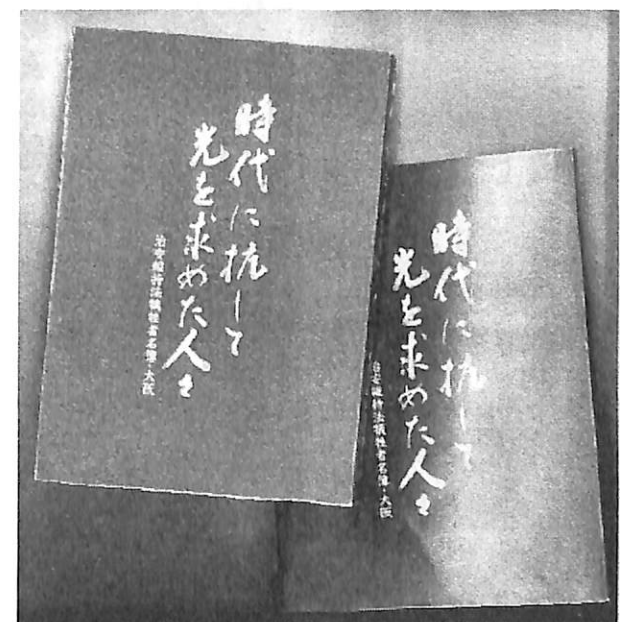
この資料を分解し、地域ごとに我が身にひきつけて学ぶという手法も考えられます。多くは青年ですが、貴重な女性達、文化・知識人、壮年などなど階層ごとに整理し、学び直すことも考えられます。

治安維持法犠牲者名簿・大阪

時代に抗して光を求めた人々

発売日 9月上旬 定価 四〇〇〇円

A5判/460頁前後



注文先 電話・FAX 06-6772-7555

E-mail tidouosk@opal.plala.or.jp

振込先

【郵便振替口座】00900・9・140547

加入者名 治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟

大阪府本部

太平洋戦争が始まった1941年12月8日、私は5歳。姫路に住んでいた私は、父母兄妹の7人家族。食料も服もなんにもない時代でしたが、父は友人の所で働いたりしながら私たちに「ひもじい思いをさせるのはかわいそうだ」と知り合いの農村へ出かけるなどで食料を調達していたそうです。

私は学校への登下校の時の「もんぺ」姿に防空頭巾がとても恐ろしく一人歩きで出かけるには不安感いっぱいでした。さらに防空壕で近所の方々と真つ暗な中にいっぱひしめく状況も息苦しく感じていました。

父は戦地に行くには「高齢だから」と出征はしませんでした。長兄は10代の終わりだからと召集令状を街のおじさんが持つてこられ、まわりの人に「パンザイ！パンザイ！」と日の丸の紙旗が振られる中、ご近所の人に「行って



戦時中、5〜9歳の記憶

此花区 植村 喜代子

まいます」といねいにおじぎをして出て行きました。私はその後姿をじつとみつめていました。家の中に戻ると何故かガラんとした居間がむなしく感じていました。ふと台所の方を見ると、流し台の隅で、割烹着を口に押し当て、嗚咽（おえつ）していた母の姿がやきついていきます。

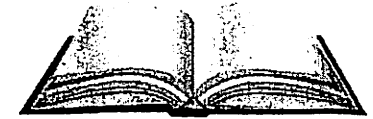
1945年8月6日、広島の方は、みてみい、すごい雲やど、黒い雨も降つとる。すごい爆弾らしいぞ、ピカドンや。ぎょうさんの人が死んだらしいぞ。口々に街の人々が話すのを聞きながら、これが生き地獄かと、幼な心に「戦争はこうやって多くの人が亡くなることなのか」と胸が痛くなったものでした。

先般、広島、長崎での原爆碑の前で首相の話がありました。こんな時でも国民の心にひびかない口調と内容で苦しくなった私です。

大阪府内の治安維持法犠牲者名簿（女性）

字数の関係上一部省略しています。あいうえお順です。(No2) (大石 喜美恵)

- 青木千春（あおき ちはる） 本籍は大阪府。早稲田大学中退。1940年（昭和15年）10月16日、日本共産党再建関係で警視庁に検挙される。（無職 27歳）
 - 井面芳子（いの お よしこ） 本籍大阪府。高等小学校卒。日本無産者医療同盟大阪支部に参加する1933（昭和8）年4月上旬から共産青年同盟の活動に協力、5月中旬、共青に加盟する。直後の5月18日検挙、7月14日起訴される（衛生婦、20歳）
 - 岩崎盈子（いわさき えいこ） 1906（明治39）年生まれ。本籍は兵庫県。大阪府北区西堀川出身。日本女子大卒。父は酒造家伊勢家の15代目。母が大阪の貸座敷業の娘という家庭に長女として誕生、兄妹が7人あった。
- 26年日本女子家政学部卒業。大阪府庁社会課に就職、方面委員担当。社会課主事に川上貫一がおり、その影響下で次第に運動に加わっていた。「社会事務業研究」「大阪時事新報」「家事と衛生」などに論文を寄稿。実践活動では日本共産党の資金カンパを担当していたと、当時活動を共にしていた松本員枝の証言がある。33年4月4日検挙、21日に起訴される。9月肺結核が悪化して保釈、自宅療養。妹も結核で、当時の歌に「妹とともに病み伏しつれづれの床に語りぬ幼き日々を」と詠んでいる。35年妹死去。それを追うかのように5月14日盈子死去。



侵略戦争に反対し 治安維持法で検挙・投獄された父（26）

著／眞殿 天童

○1950年「ガリ版刷の細胞新聞」連載20回で日本共産党員として活動していた母について少し触れました。戦後直ちに日本共産党の専従活動家となった父の側でどんな活動をしていたのか：段ボールを開けていると、ポロポロの封筒に入った当時の資料がでてきました。

色あせた1950年3月発行の日本共産党機関誌『前衛』47号の間から、青インクのガリ版刷り新聞「新高松」（B4版表裏）が出てきました。発行日は1950年4月1日、創刊号と記されています。

いまから70年前の日本共産党高松細胞が発行した細胞新聞です。発行所・日本共産党高松細胞、発行人・後岡満寿次郎と書かれています。

高松細胞の活動エリアは、阿倍野区の市立高松小学校校区を中心にしたJR寺田町駅南口周辺から美章園駅までの範囲で天王寺区、生野区、東住吉区と隣接した地域です。

発行人の後岡満寿次郎は、第35回いしずえ誌に「1981年1月29日69歳逝去。1927年無産青年同盟員となり、大阪印刷労組に加入。1948年日本共産党に入党。レッドパージ、分裂問題の中でも細胞キヤップとして活動。多くの青年活動家を育て、地域活動でも60年安保その他で活動した」と記載されています。

「後岡さんは腕の良い文選工で、仕事を通じて日々の社会情勢を肌で感じ、青年時代の戦前から革命運動に参加をされてきた方だ」と父から聞いたことがあります。実家から東へ5分ほどのところで印刷業（自宅兼印刷所の玄関から文選棚が整然と並びインクの匂いが漂う印刷所）をされていたました。時々、母に連れられ細胞会議などでお宅を訪問したことを思い出します。

○地域住民の要求掲げて細胞新聞「新高松」（添付写真）には、当時の情勢を反映し「重税へ怒り爆発す 各地で同盟罷業」の見出しで「3月20日の阿倍野、天王寺、東住吉、東、南、東成の各区が一斉に同盟休業を決行、折からの春雨を待つ200人の堂々たる自転車デモを行い、『戦争準備に使われる重税反対』『店と工場をつぶす重税反対』『売国吉田内閣打倒』等を口々に絶叫しながら各区内を一巡。生ヨ一同主催（生活擁護同盟・民主商工会の前身）アベノ納税者大会開かれる「この日阿倍野区では早朝より、それぞれプラカード、小旗を持った自転車隊が続々と、会場の北畠公園につめかけ午前10時約400人の参加者のもと全阿倍野区納税者人民大会が開催された」と、筆耕でガリ版に書かれた印刷文字は非常に美しく書かれ、貴重な文書を発見した想いです。（敬称略 つづく）



細胞新聞「新高松」

読者の文庫

川柳

岩佐 ダン吉

〈鶴彬・この一句〉(81)

「職工入ルベカラズ」重役の糞たれるとこ

・高飛車に「入ルベカラズ」とは何だ、
たかが重役のトイレのときにと彬は容赦
ない

1935年、彬26歳の作

〈私の時事吟〉

決行をします後のことなど知りません

俳句

いのち

安村 和義

赤木ファイル閣夜を曝すいのちかけ

原爆忌会にきたんよ母さんに

いのちかせ炎天を来る死者生者

麦藁帽今も疎開の風のなか

炎昼を表現不自由破る波

短歌

コロナ下の悪政を乗り越える

五輪は強行しつつコロナ患者の医療も
「自助」と首相うそぶく公民館使えなくなりコロナ下に市民文化
の息も絶えだえ

武田 俊郎

7月30日現在

会 員	1,941名
個人署名	339筆
団体署名	〇団体

投稿のお願い

「不屈」はみなさんの機
関紙です。身近な出来
事・国賠同盟に
対する意見や
メッセージな
ど、お寄せください。

「うぶやわ」

4 度目の緊急事態宣言で、大
会前の大事な理事会(8月7日)
を中止しました。40回目とい
う節目であり、人事や組織の改革
を伴う大会だけに大事に運びた
かったのですが、感染のリスク
は極力避けねばなりません▼今
月号は、大会が2部制で行われ、
1部が衆議院議員選挙勝利の決
起集会、2部が大会、という構
成であること。伊藤千代子の映
画『わが青春つぎるとも』で2
つの実行委員会が経験を報告し
ていること。ついに大阪関係の
『治安維持法犠牲者名簿』が発刊
される喜びの声を有川名誉会長
が報告されていること。尹東柱
(ユン・ドンジュ)について茨木
支部長辻村惺さんから一文が寄
稿されたこと▼眞殿さんの連載、
女性の欄、文芸欄等々、見どこ
ろ読みどころ満載になっていま
す▼曜日の関係で16日送り出し
になりますしお盆もありますの
で、なるべく早く読者へ届く様
に支部の作業を急ぎましょう。

(甲斐富貴雄)